日本統計学会会報 2013.1.25 No. 154

発行―― 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
（公財）統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax：03-3234-7738
編集責任―岩崎　学（理事長）／上野　玄太（庶務理事）
鈴川　晶夫（広報理事）／竹内　惠行（広報委員）
北村　佳之（広報委員）
振替口座―00110-3-743886
銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1．巻頭随筆：Evidence-based policy のための統計 …… 竹内　啓…1
2．2013年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報） …… 佐藤美佳・大屋幸輔・栗原考次…3
3．日本統計学会春季集会2013開催案内（第二報） 岩崎学・狩野裕・山本渉・熊谷悦生・福地純一郎…4
4．日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集 …… 岩崎　学…6
5．シリーズ：統計学の現状と今後
5.1　「自分の経験を基に統計教育に含めたい事柄」 …… 種市信裕…8
5.2　「統計学の現状と今後」…… 照井伸彦…9
6．統計検定の実施について…… 美添泰人…11
7．平成27年度からの国立大学の個別学力検査における数学の出題範囲に関する要望書について …… 竹村彰通…12
8．研究部会新設公募…… 岩崎　学…12
9．日本経済学会連合からのお知らせ …… 小島　宏・西郷　浩…13
10. 2013・2014年度代議員選挙結果 …… 竹内　秀一・渡辺　則生…14
11. 博士論文の紹介 ……14
12. 臨時理事会・委員会報告 ……14
13. 新刊紹介 ……16
14. 学会事務局から ……17
15. 投稿のお願い ……17

1．巻頭随筆：Evidence-based policy のための統計

竹内　啓（東京大学名誉教授）

1．統計学は本質的に応用科学 applied science である．それは何らかの分野における具体的な課題を解決するための方法を提供するものでなければならない．応用から離れた純粋統計 pure statistics なるものはあり得ない．もちろん本来応用から生じた問題であっても，それを純粋に理論的観点から研究する必要はあるし，またいろいろな分野への応用から作り出された方法を理論的に統一化し，体系化することも必要である．現に数理統計学は高度の数学的理論として体系化されている．しかし純粋数学の一部である確率論とは異なり，数理統計学はつねに何らかの部門における現実のデータを念頭に置いたものでなければならない．

応用分野において重要なことは，統計家とその分野の専門家―研究者，技術者だけでなく管理者，場合によっては一般の作業者―との間の相互理解を深めることである．そのためには統計家が，応用分野の科学と技術についての深い専門的知識を持つとともに，その分野の人々が統計的方法の論理と，その有用性について理解を持つことが必要である．このような条件が満たされて初めて，統計学が「役に立つ」ものとなるのである，かつての日本における品質管理運動の成功の秘訣はこの点にあったといえる．

時代とともに，社会の現実も科学技術も大きく変化し，それとともに統計学の「役に立つ」べき

状況も大きく変わったが，しかしその中で，統計家と各分野の専門家の間のコミュニケーションのレベルは下がってしまっているのではないかと感じられる．そうしてそのために，統計学の社会における比重が次第に小さくなっているのではないかと危惧されるのである．

これについては，統計学者の側が自分たちの間だけでの「アカデミック」な関心に拘って，応用分野の現実の課題に応えることができなくなっているということもあるかもしれない．しかしそれよりも統計的方法が充分有用であるにもかかわらず，その分野の人々がそのことを理解しない，或いは気づかないことが少なくないように感じられることが少なくない．

２．このことについて述べたいことはいろいろあるが，私が特に気がかりに感ずるのは政府統計の分野である，

日本の政府統計は，戦時中および敗戦の中で混乱に陥った後，戦後まったく新たに再建されたことは周知の通りである．日本の政府統計は戦後の経済再建，発展の中で重要な役割を果たし，国際的にも高く評価されるものとなっていた．

しかし時とともに統計が時代の変化に十分対応できなくなっていることを指摘されるようになり，その結果統計の「制度改革」が具体化して，2007年には「統計法」が根本的に改正された．

私は新しい統計法の下で成立した統計委員会の委員長を２年間務めさせていただいたが，そこで痛感したことは，政府や政治家，総じて「世論」を形成する人々の理解がなければ，関係者がいかに努力しても統計を「役に立つ」ものにすることは不可能だということであった．

Evidence-based policy（EBP）といわれることがよくある．しかしそのためには，前提となるevidence つまり統計データがしっかりしていて，それが正しく理解されて適切に使われなければならない．

多くの政策論の中で，数字データが日々引用され，利用されているが，その中には根拠の怪しいものや，間違った使われ方をしているものが甚だ多い．中には関係部局が都合のよい数字を作り上げていたり，一面的な数字だけを取り上げていると思われるものも少なくない．そのために一つの問題についての「予測」が，関係者によって大きく異なったりする場合もある．TPP の影響予測などはその例である．

EBP において，出発点となる数字がまちまちであったのでは合理的な討論は成り立たない．また証拠とされる数字がいい加減なものであれば，結果として採用された政策は不適切，不効率となり，大きな無駄が生ずる．

３．最近震災復興関連予算の不適切な使用が問題になっている．私は，震災直後から震災による被害の大きさの正確な把握の必要性を感じ，「震災被害統計」の作成を訴えたが，ほとんど無反応であった．復興予算は，それをどのように賄うかについて華やかに論ぜられたが，その支出額19兆円については，その総額についても，内容についても，ほとんど吟味されることなく通ってしまった．その結果明らかに不適切な支出が行われる一方，被災地が真に必要としているものについては，予算が足りなくなったり，更には制度的な障害があって予算が使われずに残ってしまったものもあったことが報道されている．それについて改めて批判されているが，しかしもし最初から被害の状況と復興のニーズが正確に把握されていれば，こんなことにはならなかったはずである．仮に「震災被害統計」の作成に100億円かけたとしても，その結果適切公平な予算配分が行われれば，何兆円もの予算がより有効に使われることになり，費用を何十倍も超える効果があったことであろう．

統計学者の中に政府統計のあり方に関心を持つ人々も少なくないし，またその中にはかつての統計審議会や，現在の統計委員会などの場を通じて，政府や関係機関に助言をしたりしてきた人もある．しかし，その人々も政府が作成する統計の質の改善とその維持については意見を述べても，統計の使われ方，或いは政府統計以外の数字の（往々に

して誤った）使われ方について関心を持ち，批判的な意見を述べることは少なかったと思う．しかし統計が正しく使われるために努力することは，統計学者の重要な課題であると私は思う．正しい数字が正しく使われるよう，世の中に働きかけることが必要であると痛感している．このことを学会員の皆さんに強く訴えたい．

2．2013年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

―企画セッションの公募―

運営委員会委員長　佐藤美佳（筑波大学）
実行委員会委員長　大屋幸輔（大阪大学）
プログラム委員会委員長　栗原考次（岡山大学）

2.1　2013年度統計関連学会連合大会について

2013年度統計関連学会連合大会は，応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会の共催により，2013年９月８日（日）から11日（水）まで大阪大学豊中キャンパス（http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka.html）で開催いたします．初日の９月８日は，市民講演会およびチュートリアルセッション，９月９日から11日までは，企画セッションなどの一般講演に加えコンペティションやソフトウェアセッションなどを予定しています．

2.2　企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は，市民講演会，チュートリアルセッション，企画セッション，コンペティションセッション，ソフトウェアセッション等を担当しております．統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください．

また，企画セッションに関しましては，今回もこれまでどおり公募いたします．広い意味で統計学の発展への寄与，統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします．なお，応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください．

企画セッションの申込みに際しては，セッションのテーマとねらい，オーガナイザーの氏名・所属・連絡先，予定講演者と演題名をメールにてお知らせください．企画セッション１件あたりの時間は120分を予定しております．講演件数・講演方法などは，この時間の範囲で自由に設定いただけます．

企画セッション応募締切り
2013年３月５日（火）
企画セッション応募先
kikaku2013（at）jfssa.jp　（at）を @ に置き換えて下さい．
担当責任者　冨田　誠（東京医科歯科大学）

2.3　その他の準備状況のご報告

2.3.1　コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです．コンペティション講演は，研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です．参加資格は2013年４月１日時点で満30歳未満の若手研究者です．所属や資格（大学院生，教員，社会人）は問いません．連名講演の場合，コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です．なお，研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は，共催６学会のいずれかの会員でなければなりません．ただし，申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます．また，事前審査は行ないません．申し込んだ有資格者全員がコンペティショ

ンに参加して頂けます．審査は，報告集の内容と当日の口頭発表に対して，各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います．

2.3.2　チュートリアルセッション，市民講演会，ソフトウェアセッションについて

９月８日に以下のようなチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です．多くの市民や研究者の方々にとって有益な内容ですので皆様の参加をお待ちしています．

＜チュートリアルセッション＞
テーマ１：統計的グラフィカルモデルの展開
講　　師：原　尚幸（新潟大学）
テーマ２：ビッグデータと統計解析
講　　師：水田正弘（北海道大学），南　弘征（北海道大学）

＜市民講演会＞
テーマ１：保健統計データの見方－長寿で健康な社会をめざす統計－
講　　師：村上義孝（滋賀医科大学）
テーマ２：統計教育充実化に向けた大学間連携事業に期待されること（仮題）
講　　師：依頼中

2.3.3　一般講演申込，報告集原稿提出，事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み，報告集原稿提出はホームページ上で行います．一般講演申込の締め切りを５月下旬（予定）とし，それ以降，報告集原稿提出および参加事前申込の締め切りを設定いたします．確定した期日や具体的な企画は，2013年４月下旬ごろの第二報でお知らせいたします．

３．第７回日本統計学会春季集会のご案内（第二報）

岩崎　学（日本統計学会理事長）
狩野　裕・山本　渉・熊谷悦生（企画・行事担当）
福地純一郎（春季集会実行委員長）

第７回日本統計学会春季集会を学習院大学にて開催いたします．会員の皆様による活発な議論を期待しております．口頭発表セッションのプログラムは下記のようになりました．午後は二つのセッションを並行して行います．ポスターセッションでは，ポスター発表を広く募集しております．優れたポスター発表に対して，実行委員会から「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします．セッション終了後，懇親会を計画しており，授賞式も合わせて行います．会員の皆様の参加を心よりお待ちしております．

春季集会に先だって３月１日（金），２日（土）に，同じく学習院大学にて第９回統計教育の方法論ワークショップが予定されています．詳細につきましては学会のホームページをご覧ください．

記

日　時：2013年３月３日（日）10：00～17：30
＋懇親会
会　場：学習院大学　西２号館301教室・302教室（東京都豊島区目白1-5-1）
参加費：無料（懇親会は有料）

プログラム

［午前の部］

10：00－10：10　会場：301教室　「開会式」
開　会：岩崎　学（日本統計学会理事長）
挨　拶：竹村彰通（日本統計学会会長）

10：10－12：00　会場：301教室
「大学間連携統計教育プロジェクト～日本・ドイツ・韓国・米国の状況と国際連携に向けて～」

オーガナイザ：美添泰人（青山学院大学）
座長：山口和範（立教大学）
講演１：美添泰人（青山学院大学）・竹村彰通（東京大学）「日本における大学間連携による統計教育について」
講演２：Hans-Joachim Mittag（University of Hagen）「ドイツ大学間連携プロジェクト“Neue Statistik”」
講演３：Ulrich Rendtel（Free University of Berlin）「Project“Neue Statistik”and“Statistical Lab”for the basic courses in Statistics」
講演４：Tae-Rim Lee（Korea National Open University）「韓国における e-learning コンソーシアムと統計教育」
講演５：Ronald L. Wasserstein（American Statistical Association）「ASA による統計教育の質保証：専門統計家資格認証」

12：00－13：45　「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）

［午後の部］
13：45－15：30
会場：301教室　「高次元データ解析の理論と方法論：最前線の動向」
オーガナイザ：青嶋　誠（筑波大学）
座長：青嶋　誠（筑波大学）
講演１：J.S. Marron（University of North Carolina, USA）「Object Oriented Data Analysis: HDLSS Asymptotics」
講演２：矢田和善（筑波大学），青嶋　誠（筑波大学）「PCA Consistency for Power Spiked Model in High-Dimensional Settings」
講演３：藤越康祝（広島大学，名誉教授）「高次元モデル選択規準」

会場：302教室　「政府統計におけるモラルハザード」
オーガナイザ：濱砂敬郎（九州大学）
座長：伊藤陽一（法政大学，名誉教授）
講演１：山口秋義（九州国際大学）「2010年ロシア人口センサスにおけるモラルハザード：実査と集計の諸段階における歪曲」
講演２：松川太一郎（鹿児島大学）「犯罪統計作成におけるモラルハザード」
講演３：濱砂敬郎（九州大学，名誉教授）「政府統計におけるモラルハザード：愛知県東浦町の国勢調査問題について」

休　憩

15：45－17：30
会場：301教室　「中長期パネル分析の諸問題と展望」
オーガナイザ：赤司健太郎（学習院大学）
座長：赤司健太郎（学習院大学）
講演１：加藤賢悟（広島大学）「Estimation and inference for panel data models under misspecification when both n and T are large」
講演２：早川和彦（広島大学）「高次元パネルデータの計量経済分析」
講演３：奥井　亮（京都大学）「ファクターモデルの近年の研究展望」

会場：302教室　「人口データと地理情報の融合による空間統計の未来」
オーガナイザ：川崎　茂（日本大学）
座長：久保川達也（東京大学）
講演１：米澤哲一（総務省統計局）「平成22年国勢調査に関する地域メッシュ統計の結果の概要」
講演２：羽渕達志（（独）統計センター）「国勢調査の地域区分と地域データ」
講演３：寺田雅之（NTT ドコモ）・木村正一（（独）統計センター）「モバイル空間統計の信頼性評価」
18：00－20：00　「懇親会」
会場：学習院大学　百周年記念会館

○ポスターセッションの申し込み
メールにて poster-haru13@jss.gr.jp 宛てお申し

込みください．詳細は学会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/07/JSSspring2013_poster.html をご覧ください．なお，申し込み締め切りは２月13日（水）です（厳守）．

○懇親会の申し込み

メールにて konshin13@ jss.gr.jp 宛てお申し込みください．詳細は学会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/07/JSSspring2013_party.html をご覧ください．なお，申し込み締め切りは２月20日（水）です．

４．日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

岩崎　学（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します．

第18回　日本統計学会賞
第９回　日本統計学会統計活動賞
第９回　日本統計学会統計教育賞
第７回　日本統計学会研究業績賞
第４回　日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2012年12月25日（火）から2013年４月５日（金）と致します．推薦書の書式は全て学会ホームページ（http://www.jss.gr.jp/ja/）からダウンロード可能です．推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします．封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい．不明な点は学会事務担当者にご照会下さい．

［宛先・照会先］

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F
（公財）統計情報研究開発センター内
日本統計学会
TEL&FAX　03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします．

○各賞共通

［受賞対象］

各賞受賞の対象となる者は，その年齢，性別，国籍，日本統計学会の会員・非会員の別を問わない．

［推薦方法］

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する．各賞受賞候補者を推薦することができる者は，日本統計学会の正会員，名誉会員に限る．

［選考方法］

各賞受賞対象者の選考は，日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が，会員の推薦を受けて実施する．

［発表］

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し，大会期間中に授賞式を行う．

○各賞の概要

日本統計学会賞

［趣旨］

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し，その功績を顕彰する．

［対象範囲］

対象とする分野は次のとおりとし，全体として年間３名程度に授与する．

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む．

(1) 人文・社会系では，経済，経営の実証分析，社会学，言語学，心理学の調査・分析など，統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者．

(2) 医学，工学，農学，理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献

のあった者.

(3) 統計計算では，統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者.

(4) 応用一般として，分野を問わず統計調査の標本設計，経営管理などで貢献のあった者.

その他：理論・実証・応用などを含め，幅広く統計学の普及・発展に貢献した者.

［推薦・選考方法］

推薦者は所定の書式にしたがって，対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する．選考委員会の構成は以下の通りとする.

・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事２名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名.

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める.

［賞の内容］

賞状および記念品などの副賞を授与する.

日本統計学会統計活動賞

［趣旨］

研究や教育に限らず，広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する.

［対象範囲］

授賞の対象は，次に揚げる分野の活動である.

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立，実務家へのサポート，統計に関する企画・推進等).

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア，データ・ベースの開発及び支援等).

(3) 新たな研究領域・分野の開拓.

(4) 新たな統計の作成（個人，グループ・団体等による統計の作成と継続，及び作成機関における従来活動を超えた取組み等).

［選考方法］

選考委員会の構成は以下の通りとする.

・日本統計学会会長，前会長，理事長，学会活動特別委員会委員長，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名.

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める.

［賞の内容］

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には，賞状及び賞牌を授与する.

日本統計学会統計教育賞

［趣旨］

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し，わが国の統計教育の発展並びに統計の普及，啓蒙に貢献することを目的とする.

［対象範囲］

授賞の対象となる者は，次に揚げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする.

(1) 統計教育に関する著書，論文

(2) 統計教育の実践

(3) 統計教育に用いるソフトウェア，テキスト，教材等の開発

(4) 統計の普及，啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

［選考方法］

選考委員会の構成は以下の通りとする.

・日本統計学会会長，前会長，理事長，統計教育委員会委員長，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名.

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める.

［賞の内容］

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する.

日本統計学会研究業績賞

［趣旨］

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し，わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする.

［対象範囲］

過去３年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする．受賞件数は毎年２件以内とする.

［選考方法］

選考委員会の構成は以下の通りとする．

・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事２名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名．

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める．

［賞の内容］

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する．

日本統計学会出版賞

［趣旨］

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究，教育あるいは啓蒙）を出版した著者，訳者あるいは出版社を顕彰し，わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする．

［対象範囲］

審査の対象は，次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする．

(1) 著者，編者あるいは訳者として，過去５年程度に刊行された統計学に関連する研究，教育あるいは啓蒙上の図書．

(2) 過去５年程度に刊行された統計学に関する出版企画．

受賞件数は毎年２件以内とする．

［選考方法］

選考委員の構成は以下の通りとする．

・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事２名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名．

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める．

［賞の内容］

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する．

５．シリーズ：統計学の現状と今後

5.1　自分の経験を基に統計教育に含めたい事柄

種市　信裕（鹿児島大学）

実質的な統計学との出会いは，もう30年以上も前になりますが，北海道大学環境科学研究科の修士論文作成の時でした．その修士論文の題が「住民意識を考慮したエネルギー利用分析―十勝の３町村を例として」というものでした．これは，その当時化石燃料や原発依存の問題点を強く意識して書かれた，エイモリーロビンス博士の著書「ソフトエネルギーパス」に書かれているソフトエネルギーの実際の可能性を調べようとしたものでした．問題意識も非常に高く熱心に修論作成をおこなっていたため，住民意識を調べるため自分でアンケートを作成し，その当時ですから印刷屋さんに印刷をお願いし，十勝の３町村の役場までその配布を依頼するため直接出向き，数ヶ月後にまた回収しに出向くということをおこない，またその際，民家を訪問し聞き取り調査もおこないました．住民意識を分析するために何らかの統計学の方法が必要になり，そのときに統計学の知識がほぼゼロの私が苦し紛れに，後の恩師である河口至商先生の著書「多変量解析入門Ⅰ，Ⅱ」を手にしたのが始めでした．潜在クラス分析を用いて分析をおこなったのを覚えています．実際にははっきり言って理論はほとんど解らずに使っていたため，ある時期までは無駄な時間を使っていたように思っていました．しかし今思うと，統計理論は知らずとも，自分が本当に示したいモデルを設計し，示そうとした経験がその後統計学を学ぶにあたって非常に貴重であったと思います．それは，他人に委託されたデータに関して分析を考察することとはかなり違うものだと思います．

修了後，もう少し情報関係を深く勉強したくなり（就職の有利さをめざし？）工学研究科の河口先生の情報数理工学第一講座を受験しなおしました．その当時，研究室には佐藤義治先生が助手としておられました．ここではまだ統計学を学ぼうとは思っていませんでしたが，ゼミのために

C.R. Rao の 論 文 Diversity; its measurement, decomposition, apportionment and analysis, *Sankhya*, A（1982）と Burbea and Rao の Entropy differential metric, distance and divergence in probability space; A unified approach, *J. Mult. Anal.*（1982）という論文を読んで発表しました．これは，完全な統計の論文では無いのですが，エントロピーに基づく擬距離の概念やその分解による応用，またその局所化によるリーマン計量や測地線について書かれており，非常に良く勉強したのでカルバックのダイバージェンスとフィシャー情報行列のことも含めてよくわかった気にさせられました．しかし，統計学というものが今いちどころか今さん位ピンと来ていませんでした．ついていなかったせいか，その当時，私の見た数理統計学の本の多くは空しい確率の話ばかりに紙面を裂き統計学をなかなか教えてくれませんでした．しかし，その後，竹内啓先生の「数理統計学」によって私の不満の多くは解決しました．上述の論文と統計学が結びつきました．

この情報数理工学第一講座の先輩として成蹊大学の中西寛子先生がいらっしゃいます．われわれの講座では大学院で初めて統計に触れるものがほとんどであることから，もっと系統立って統計理論を習いたかったとよく言われます．昔は中西先生の意見に同感だと思っていましたが（確かに，不等式を示せば論文は書ける），がっちり系統的に学んで来た分だけ統計的な良い発想が乏しくなるのではと最近は感じています．

このあと，博士課程までいってしまい，単位取得退学して１年間の埼玉県での高校教師のあと，帯広畜産大学教養課程に就職することができました．そこでは非常に教育に関して勉強になることが多かったと思います．私の前任者も微分幾何学の専門，同僚の先生も関数解析の専門の先生で，統計学や実験計画法などの統計の科目を受け持っておられました．折に触れて話を聞くとやはり全く価値観が異なり，たとえば正規分布の密度関数の$-\infty$から∞の積分が１になることを２重積分を使ってきちんと示すことやモーメントがμや$\sigma 2$になることをきちんと示す等々，いつ統計学を教えるのだろうと思いました．さらに，数学の先生は尤度の考え方は納得しないのだなと感じ，本当には統計学は理解してもらっていないのだなと思いました．もう一つ勉強になったことは，教養部の改組の後，学生の卒論修論指導もするようになり専門の先生と交流をもつようになり学校のこともわかるようになってきたのですが，実験系にもかかわらず，家畜育種系の研究室の統計学のレベルが私どもではとてもかなわないほど高かったことです．もちろん，学生も博士後期課程の学生を筆頭にどうやってこんなに教育したのだろうと思うほどでした．先生にお聞きしたところ，Wiley classics になるほどの名著 Linear models の著者 Searl 先生もこの分野で実際のデータを扱っている方のようで，実データを扱いそこから物を言おうとしている研究者の底力を再認識させられました．

システマティックな統計教育が大切であることも理解できますが，現実にはなかなか難しいとは思いますが，時間に追われる現代だからこそ，統計学は数学や確率論とは異なるものだということを教えるステップ，統計学を使うためのアイデアを披露するステップ，実データから自分の信念をもって思う仮説を主張するステップもどこかで導入したほうが良いと考える今日この頃です．

5.2　統計学の現状と今後

照井　伸彦（東北大学）

１．過去：計量経済学・統計科学の移り変わり

私が大学院生として計量経済学，統計学の勉強を始めた1980年前後では，推定量の漸近理論や小標本厳密分布，さらに漸近展開がとくに同時方程式の推測において大きな関心領域であり，日本ではこれらをお家芸として優れた研究業績を挙げていました．このとき，アメリカでの計量経済学では，離散選択モデルの理論的研究と応用が進みましたが，これらを身近に感じていた（少なくとも若手）研究者は多くはなかったと思います．とこ

ろが，離散選択モデルは，経済分析を take off して工学や政治学など他分野に浸透してその影響力を拡大させていったことは言うまでもありません．また統計学では Bootstrap など計算機を利用した統計技術も発展していきました．さに90年代になり，importance sampling やマルコフ連鎖モンテカルロ法による計算機ベースの手法が発展し，これを利用した柔軟な統計モデリングを許すベイズモデリングが急速にその応用範囲を広げていったことは衆目のところであると思います．

２．現在：サービスサイエンスとビッグデータ

先進国の産業構造変化に対応して「ものづくり」から「サービス」へいち早くシフトして“サービスサイエンス”という言葉を作りだした企業の IBM は，今度は“ビジネスアナリティクス”という言葉で Crunchers: Thinking by Numbers を推進しています．しかし，そこでやられていることは統計・計量分析がベースです．

高名なミクロ経済学・情報経済学者である Hal Varian は，Google のチーフ・エコノミストに転身し，「次の10年でセクシーな仕事は Statistician である：データを見分ける能力，データを理解する能力，処理する能力，データから価値を取り出す能力，データを視覚化する能力，データを人に伝える能力」であると述べたことは良く知られています．さらに応用計量経済学者の Pat Bajari は，Amazon のエコノミストに転身しています．大規模データをビジネスに活用する場合でも，パターン発見ばかりでなく，理論にもとづく構造に根付いた判断が必要であるとも推察される現象に見えます．

しばらく前から，日本のサービス産業の生産性向上が政策課題となり，経産省や文科省などで政策的事業が各種展開されています．私は，現在，ビジネス分野の統計分析の研究をしていることから，企業の調査データ分析に関わる人たちと議論をする場が幾度もあり，それらを通じて痛感するのは，産業界における統計リテラシー不足です．いうまでもなく欧米など他の先進諸国との違いは，日本に統計学部が無いこと，したがって Statistician という職能もなく，その結果，産業界では（品質管理など一部を除いて）統計分析が意識として根付かず，したがって十分活用されてこなかったことであると思います．最近になって，本学会主導で統計検定が始まり，また統計教育を初等中等レベルから盛り込む努力がなされ成果を見ています．私は，これをさらに延長して，他の先進諸国並みに，学部・大学院修士レベルで統計学部が提供する体系的教育の整備と普及による統計マインドを備えた人材の育成が必要ではないかと感じています．

３．将来：コンピュータ科学と統計科学

Web サービスやクラウドの発展によって，ビッグデータがあらゆるところに生み出されています．マーケティングの消費者行動論では消費者は独立であると捉えず，準拠集団など消費者が帰属するグループの影響や社会の文脈に依存するものとし，さらに製品・サービスに関する口コミや消費者自身の評価などによって行動が影響を受けるものとしています．そのとき，ID-POS など構造化された行動データと口コミなどネット上の非構造データを統合する統計技術が求められています．その場合，緻密に計画され高密度の情報を持つ小規模データを丁寧に分析する古典的統計学のパラダイムから，非構造で情報密度の低い大規模データを素早く分析して見せる新しい統計学のパラダイムが同時に求められているものと考えています．

コンピュータを駆使した大規模データのデータマイニング技術は，潜在する規則的パターン発見で有効なツールを提供しています．他方，統計科学は確率分布にもとづく因果推論を得意とし，背景にある理論に基づいて問題を解決・制御しようとするマインドが強い分析手法であり，確率分布の概念を持っていることから推定量や予測分布として精度評価が可能であることが両者を差別化する特徴であると思います．

いわゆるビッグデータ時代の統計科学は，当然ながら，数理的側面のみならずコンピュータとど

のように付き合うかが重要な論点となり，その際，大規模情報の解析では，多くは情報密度が高くないため次元圧縮技術の開発が重要な問題となり，さらに Variational Bayes など高次元積分問題への近似的手法もさらなる発展が必要な領域と思います．他方，データがよほど大規模となると統計科学では手に負えない段階となると思います．統計科学は中規模以下のデータを丹念に分析して因果構造を解析して見せるところにその存在意義を示すことになり，相対的には小標本データを精査する古典的統計学の時代に先祖がえりするようなイメージを持ってしまいます．ただし，ビッグデータ時代でも，中規模以下のデータの存在や意義が少なくなるとは思えません．さらに大規模データの中でも問題が複雑で細かい知見が求められる場合など，まだまだ統計科学の活躍の場は広がりを見せるものと思います．あるいはその活躍の場を広げて見せていくことが必要なのではないでしょうか．

6．統計検定の実施について

美添　泰人（統計検定運営委員会委員長）

2011年より開始した統計検定の事業に対しては，会員の皆様の大きな支援を頂いております．第２回目の検定が2012年11月18日に，札幌，仙台，東京，名古屋，大阪，福岡の８つの一般会場と，大学間連携共同教育推進事業の連携大学を含む12の団体特設会場で実施されました．会員の皆様からは，問題の作成・点検，会場の手配・運営など，2011年の第１回目に続いて献身的な協力を頂きました．関係者を代表して，心よりお礼申し上げます．

今回の検定では新たに開始した１級を含む６つの種別で試験が実施されました．申込者総数は延べ2692名となり第１回検定の申込者数1200名と比較して倍以上となりました．各種別の申込者数，受験者数，合格者数，合格率は次のとおりです．

１級	228	158	25	15.82％
２級	1079	840	319	37.98％
３級	771	658	390	59.27％
４級	70	62	43	69.35％
統計調査士	326	302	149	49.34％
専門統計調査士	218	205	106	51.71％

試験の結果については試験実施の１か月後に，希望者のみ Web で発表しました．郵便による試験結果の通知および合格証は１月に発送する予定です．なお成績上位者に対しては表彰状を贈ることとして，その手配も進めています．英国王立統計学会（RSS）に準じて，これらの成績優秀者は本人の同意のもとに，Web 等で氏名を公開します．

試験とは別に，従来から総務省の支援の下に公益財団法人統計情報研究開発センターが統計教育の普及啓発活動の一環として実施してきた「統計グラフ全国コンクール」に関連して，優秀な作品の制作者への日本統計学会会長賞の授与および「統計検定４級（活動賞）」の授与も，学会で承認されています．今年の統計グラフ全国コンクールへの応募作品数は23879点，そのうち優秀と認められ「４級（活動賞）」を授与される作品の受賞者数は1201名となりました．日本統計学会会長賞は，2011年11月16日（金）に東京都で開催された第62回全国統計大会において，竹村彰通会長から副賞とともに授与されました．４級（活動賞）の表彰状は各都道府県の統計協会を通じて送付されます．

過去の試験については正解と簡単な解説を統計検定のウェブで公開しました．特に要望の多かった４級，統計調査士，専門統計調査士については問題も公開しています．検定の各級に対応する教材に関しては，昨年の試験に関してアマゾンから

プリント・オン・デマンドの形式で「統計検定問題と解説（2011年11月）２級・３級・４級」を提供しています．これに続いて2012年版の「問題と解説」では「２級・３級・４級」および「１級・RSS/JSS」の提供を計画しています．

また，これまでに２，３，４級に対応した教科書を発行いたしましたが，2013年４月には１級対応の教科書も発行する予定です．著者の方々のご好意により，これらの書籍の印税はすべて一般財団法人統計質保証推進協会を通じて統計教育に役立てられます．

2013年には，５月25日（土），26日（日）にRSSと共同で第２回となる国際資格試験を実施します．また，１級から４級までおよび統計調査士，専門統計調査士など，第３回目となる国内資格試験は，11月17日（日）に実施いたします．なお，今後は３級および４級の試験回数を増やすことも検討しているところです．

来年度以降も，統計教育の質の向上を共通の目標とした活動を継続し，一層発展させたいと念じております．これまでの活動を支えて頂いた会員の皆様には，重ねてお礼申し上げるとともに，引き続きご支援下さいますよう，お願い致します．

７．平成27年度からの国立大学の個別学力検査における数学の出題範囲に関する要望書について

竹村　彰通（日本統計学会会長）

2012年10月８日づけで，統計関連の６学会および統計関連学会連合は，「平成27年度からの国立大学の個別学力検査における数学の出題範囲に関する要望書」を国立大学協会に提出しました．要望書は統計学会のホームページのお知らせに掲載しております．

具体的な要望は次のとおりです：数学Ｂは，「確率分布と統計的な推測」，「数列」，「ベクトル」から出題し，２項目を選択解答する．

これは，高等学校における指導要領の改定にともない統計内容が充実したにもかかわらず，主要な国立大学の入試において，数学Ｂの筆頭項目となった「確率分布と統計的な推測」が数学Ｂの出題範囲から排除されているという事態に対するものであり，国立大学協会として「確率分布と統計的な推測」を数学Ｂの出題範囲に含める指針を提示することを要望するものです．

本件については，学会として今後とも粘り強い働きかけが必要と考えられます．

８．研究部会新設公募

岩崎　学（日本統計学会理事長）

統計学の研究活動を助成するため，日本統計学会が1954年に研究部会制度を設けて以来，これまでに多くの研究部会が誕生し，統計の発展に寄与して参りました．この制度は，公募制をとり，原則として年１ないし２件が社員総会の承認を得て発足します．部会の設置期間は原則，２年以内とします．補助金は１部会につき年間10万円で，部会設置後１年を経過したとき，過去１年間の部会の経過報告書及び会計報告書を，また設置期間が終了したとき，経過ならびに成果に関する報告書及び会計報告書を社員総会に提出しなければなりません．また，部会の設置期間終了のとき，寄与

した成果について，本学会会報等に報告を掲載して広く会員に公表するものとすることになっています．

以下の要領で研究部会を公募いたしますので，ふるってご応募ください．

応募期日：2012年12月８日～2013年２月７日

応募先：

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

（公財）統計情報研究開発センター内

日本統計学会事務局

tel & fax：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

応募書類の書式は学会ホームページよりダウンロードください．採否は３月に開催予定の社員総会にて審議の上，決定します．

なお，研究分科会（設置期間４年間）については随時募集しております．こちらにも積極的にご応募ください．研究分科会の趣旨等については学会ホームページをご参照ください．

９．日本経済学会連合からのお知らせ

小島　宏・西郷　浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では，例年通り平成25年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します．応募者多数の場合，日本経済学会連合理事会が対象者を選考します．また，１回の募集につき１学会１件の応募が原則ですので，希望者が複数の場合には理事会で選考いたします．募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください．

日本経済学会連合　国際会議派遣補助

(a)　目的：

加盟学会の会員が，平成25年４月１日から平成26年３月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合，往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する．

(b)　補助額：

原則として開催地により７段階（10万円から40万円まで５万円刻み）とする．

(c)　募集時期：

第１回：平成25年２月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第２回：平成25年５月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

注）第２回は，第１回選考の結果，余裕定員があるときにのみ応募する．

(d)　応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること，申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること．被派遣者は，過去５年間，日本学術会議から派遣費を受けていないこと，また，当年度において，日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと．申請は，１回の募集につき１学会１件に限る．

(e)　備考：

申請には，当該国際会議に関するインフォメーション（レター，プログラムなど）を添付すること．また，補助を受けた被派遣者は，帰国後１ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること．この補助を受けて国際会議に出席した場合には，経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある．

10. 2013・2014年度代議員選挙結果

竹内　秀一・渡辺　則生（2013・2014年度代議員選挙管理委員）

2012年11月16日（金），統計情報研究開発センターにおいて，選挙管理委員２名（竹内秀一，渡辺則生）により，2013・2014年度代議員選挙の開票が行われました．その結果，定款第５条２により，次の34名が選出されました．

会田雅人，青嶋誠，伊藤彰彦，岩崎学，大森裕浩，狩野裕，鎌倉稔成，国友直人，久保川達也，栗木哲，西郷浩，佐藤朋彦，佐藤美佳，神保雅一，杉山高一，竹内光悦，竹村彰通，田中豊，田村義保，椿広計，富澤貞男，中野純司，西井龍映，樋口知之，福井武弘，舟岡史雄，前園宜彦，槙田直木，村上征勝，矢島美寛，美添泰人，吉田朋広，若木宏文，渡辺美智子（以上34名，五十音順）

なお，有権者1,370名（正会員1,352名及び名誉会員18名）中，投票者数181名，投票用紙延べ記名者数858，うち有効850，同無効８でした．

11. 博士論文の紹介

（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（取得年月）の順に記載いたします．（敬称略）

●（1）菅原慎矢（2）経済学博士（3）東京大学（4）Bayesian Analysis for Microeconometric Models of Discrete Choice Variables（離散選択変数のミクロ計量経済モデルのためのベイズ分析）（5）大森裕浩（平成24年10月）

12. 臨時理事会・委員会報告

第２回臨時理事会

日時：2012年12月22日（土）12：00～12：50

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者

理事：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太（庶務），西郷浩（庶務），小林正人（会誌編集・欧文），青嶋誠（会誌編集・和文），勝浦正樹（大会），渡辺美智子（検定），狩野裕（企画・行事）（以上９名，カッコ内は役割分担）

監事：矢島美寛，美添泰人，渡部敏明（以上３名）

オブザーバー：山本渉，熊谷悦生，竹内惠行，北村佳之（以上４名）

＜第１議案＞常設委員会における委員の交代

岩崎理事長より，下記のとおり委員の交代について提案があり，承認された．

奥村英則委員より田畑耕治委員に交代（2012.10.1付け）

樋田勉委員より黒住英司委員に交代（2012.10.1付け）

汪金芳委員より笛田薫委員に交代（2012.10.1付け）

＜第２議案＞雑誌統計について

岩崎理事長より，日本統計協会発行の雑誌「統計」を，同協会の提案に基づいて，廉価で会員の希望者に配布する提案があり，承認された．

＜第３議案＞会長選挙規程について

岩崎理事長より，資料に基づき，会長選挙規程の変更（選挙権者の規定の追加）について提案があり，それを承認し，社員総会の承認を受けることとした.

＜第４議案＞学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

岩崎理事長より，学会賞各賞の候補者推薦を開始について提案があり，推薦受付期間を2012年12月25日より2013年４月５日までとすることを承認し，会長が推薦する選考委員は社員総会において承認を得ることとした.

＜第５議案＞会員の入退会（回覧）

岩崎理事長より，回収資料に基づき入退会者が紹介され，承認された.

＜第６議案＞横断型基幹科学技術研究団体連合の理事候補推薦について

竹村会長より，資料に基づき，本学会から理事候補を推薦することについて説明があり，人選を会長に一任することを承認した.

＜第７議案＞質保証推進委員会運用規則及び推進委員の選定について

竹村会長より，資料に基づき，質保証推進委員会運用規則（案）が提案され，これを承認し，社員総会の承認を受けることとし，推進委員は質保証委員会で選出するものとした.

委員会

日時：2012年12月22日（土）12：50～14：10

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太，西郷浩，小林正人，青嶋誠，勝浦正樹，渡辺美智子，狩野裕，矢島美寛（監事），美添泰人（監事），渡部敏明（監事），山本渉（委員），熊谷悦生（委員），竹内惠行（委員），北村佳之（委員）

＜報告事項＞

１．欧文誌編集委員会

小林委員長より，(1) 2012年12月号は英文校閲中であること，(2) 投稿数は増加しているので欧文誌は順調に発刊できる状況にあること，(3) JSTAGE によるオンライン編集を利用すべく申し込む計画であること（2013年9月），が報告された.

２．和文誌編集委員会

青嶋委員長より，(1) 2013年３月号の編集状況（特集なし，学会賞受賞者による論文多数），(2) 2013年９月号の編集計画（Big Data を特集），(3) 2013年９月号まで現編集委員会が担当すること，が報告された.

３．大会委員会

勝浦委員長より，資料に基づき，統計関連学会連合大会運営委員会（実質的な活動は今後）と同プログラム委員会，国際交流関係（2013年度は韓国が担当）のそれぞれについて進捗状況が報告された.

４．企画・行事委員会

報告事項なし.

５．庶務委員会

上野委員長より，資料に基づき，(1) 研究部会の募集を開始したこと（受け付けは2012年12月８日から2013年２月７日まで），(2) 代議員選挙の結果（学会 HP 掲載済），(3) 科研費（研究成果公開促進費（国際情報発信強化））に申請したこと，が報告された.

６．広報委員会

竹内委員より，会報 No.154の編集状況が報告された.

７．その他

(a) ISI 基金の移管について

岩崎理事長より，資料に基づき，理事会決議省略の形式で ISI 基金が日本統計学会に移管することが決まり（2012年11月14日付），移管の実施に向けて準備が進められていることが報告された.

(b)大学入学試験における「数学Ｂ確率分布と統計的な推測」の扱いについて

竹村会長より，統計関連学会連合理事会から国大協に「数学Ｂ確率分布と統計的な推測」について要望書が提出された背景，学内における自らの働きかけ，実際の働きかけの重要性，が報告された.

(c)第３回科学技術教育フォーラムについて

渡辺理事より，第３回科学技術教育フォーラム（2012年12月26日開催）の開催が報告された.

＜審議事項＞

１．欧文誌編集委員会

審議事項なし.

２．和文誌編集委員会

審議事項なし.

３．大会委員会

勝浦委員長から，資料にもとづき，2013年統計関連学会連合大会において，日本統計学会が申し込むべき企画セッションについて提案があり，審議の結果，会長講演と学会賞等授与式，受賞者講演のために２コマを連続して確保するように要望することを承認した．受賞者の集合写真を撮影する時間帯を設けることとした．２年間続けた初級・中級講座について，60周年基金による予算等を考慮して2013年連合大会での実施を検討することとした.

４．企画・行事委員会

狩野委員長より，資料に基づき，2013年３月３日に学習院大学で開催予定の春季集会のプログラムについて提案があり，セッションの時間帯の入れ替えなどの修正の上，承認された．春季集会に合わせて，統計教育委員会のプログラムも実施されることが紹介された.

５．庶務委員会

審議事項なし.

６．広報委員会

審議事項なし.

７．その他

(a) International Conference on Computational and Financial Econometrics におけるセッションの企画について

竹村会長より，同コンファレンスにおいて，日本統計学会が企画セッションを担当するよう主催者側から要望があり，適任者を選び，学会としてサポートすることを承認した.

(b)九州大学 IMI からの依頼について

竹村会長より，資料に基づき，九州大学マス・フォア・インダストリ研究所（IMI）から，同研究所が文部科学省共同利用・行動研究拠点の認定を受けるための支援（推薦状）の依頼があったことの報告があり，推薦状の内容について審議し，支援することを承認した.

(c)学部生による統計研究発表の場の設定について

竹村会長より，統計を熱心に勉強する学部生を学会として支援するため，連合大会において学部生のコンペセッションを設定することなどを検討することが提案された．春季集会の利用もふくめて，今後検討することとした.

次回理事会日程

第２回通常理事会　2013年２月９日（土）12：00から　統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

13. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します.

●千野直仁，佐部利真吾，岡田謙介著，『非対称 MDS の理論と応用』，現代数学社，2012年４月，￥3,360.

内容紹介：主として計量心理学の分野の研究者により開発された非対称多次元尺度構成法（非対称 MDS）の数学的基礎から同理論の概要，今後の課題までをまとめたもの．同方法の分析対象は，心理学にとどまらず，行動科学，地理学，生物学，物理学，脳科学など，複数の対象相互の非対称な関係に亘る.

●石田基広著『R で学ぶデータ・プログラミング入門－ RStudio を活用する－』，共立出版，2012年10月14日，￥3,360.

● C.P. ロバート, G. カセーラ著,『R によるモンテカルロ法入門』, 丸善出版, 2012年８月23日, ¥4725.

●高田佳和著，『例題で学ぶ統計入門』，森北出版，2013年１月，￥2,100，ISBN：978-4-627-09621-9
内容紹介：大学理系学部１，２年生向けの統計学のテキスト．統計的推測方法を標準誤差，Ｐ値を用いて統一的に記述している．例題から入り，その問題を解決するために，どのような推測方法を用いればよいかを述べている．

14. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2012年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います．会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします．速やかな納入にご協力をお願い申し上げます．また便利な会費自動払込制度もご用意しています．次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい．

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください．手続きに必要な書類が送付されます．

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
（公財）統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax：03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

入会承認

伊藤佳幹，請田和彦，大坪辰也，大淵智勝，荻原哲平，熊澤美裕紀，佐野雅隆，清水浩二，下野寿之，草田義昭，中川香織，中野あい，深谷肇一，福田靖一，藤井麻由，三島晃陽（敬称略）

退会承認

伊藤賀一，請田和彦，小澤明子，河野仁志，眞銅隆至，西澤英子，宮井正彌，矢野順治，（敬称略）

長期間連絡不能により退会したとみなされた会員

荒谷功機，泉弘志，井上達紀，井上久志，川田知佳，岸本淳司，具滋興，小林徹，小林雅裕，佐藤上，重見隆之，鈴木達三，髙橋慎吾，高橋文博，竹田利秀，張星源，陳春航，拝野克行，本田哲弘，水野勝之，宮越千智，三山恵子，森敦夫，山口景子（敬称略）

現在の会員数（2012年12月28日）

名誉会員	18名
正会員	1,366名
学生会員	54名
総計	1,438名
賛助会員	16法人
団体会員	6団体

現在の賛助会員リスト（2012年12月28日）

朝日新聞社　世論調査センター
㈱ NTT データセキスイシステムズ
㈲啓文堂松本印刷
SAS Institute Japan ㈱
㈱数理システム
武田バイオ開発センター㈱
帝人ファーマ㈱
㈱電通　BI プランニング局
東京図書㈱
（公財）統計情報研究開発センター
日本アイ・ビー・エム㈱
一般財団法人日本科学技術連盟

日本銀行　調査統計局
㈶日本統計協会
マツダ㈱
㈱三菱 UFJ トラスト投資工学研究所
（敬称略）

15. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの，会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください．以下のような情報も歓迎いたします．

- 来日統計学者の紹介
  訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください．
- 博士論文・修士論文の紹介
  (1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月　をお知らせください．
- 求人案内（教員公募など）
- 研究集会案内
- 新刊紹介
  著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください．紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください．

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します．

原稿送付先：

〒060-0808 北海道札幌市北区北９条西７丁目
北海道大学大学院経済学研究科
鈴川晶夫　宛
E-mail：koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
  http://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL：
  http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL:
  http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
  meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
  koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
  shom@jss.gr.jp